

## 7 「孤立ゼロプロジェクト」など

- 
- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況
  - (2) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路
  - (3) 「地域包括支援センター」の認知状況
  - (4) 「地域包括支援センター」の認知経路
  - (5) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向
  - (6) 協力意向がある活動内容
  - (7) 「成年後見制度」の認知状況
-



## 7. 「孤立ゼロプロジェクト」など

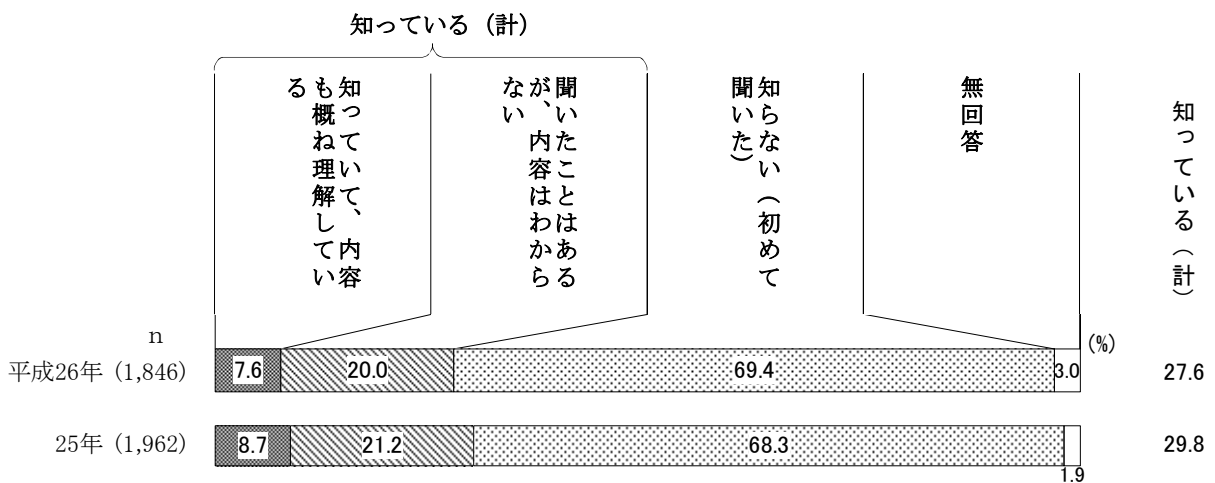
### (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

■ 【知っている】が2割台半ば、「知らない（初めて聞いた）」は7割弱

問28 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか。  
（○は1つだけ）

※ 「孤立ゼロプロジェクト」とは地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

図7-1-1 前回調査比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



「孤立ゼロプロジェクト」について、「知っていて、内容も概ね理解している」が7.6%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の20.0%を合わせた【知っている】は27.6%となっている。

一方、「知らない（初めて聞いた）」は69.4%を占めている。

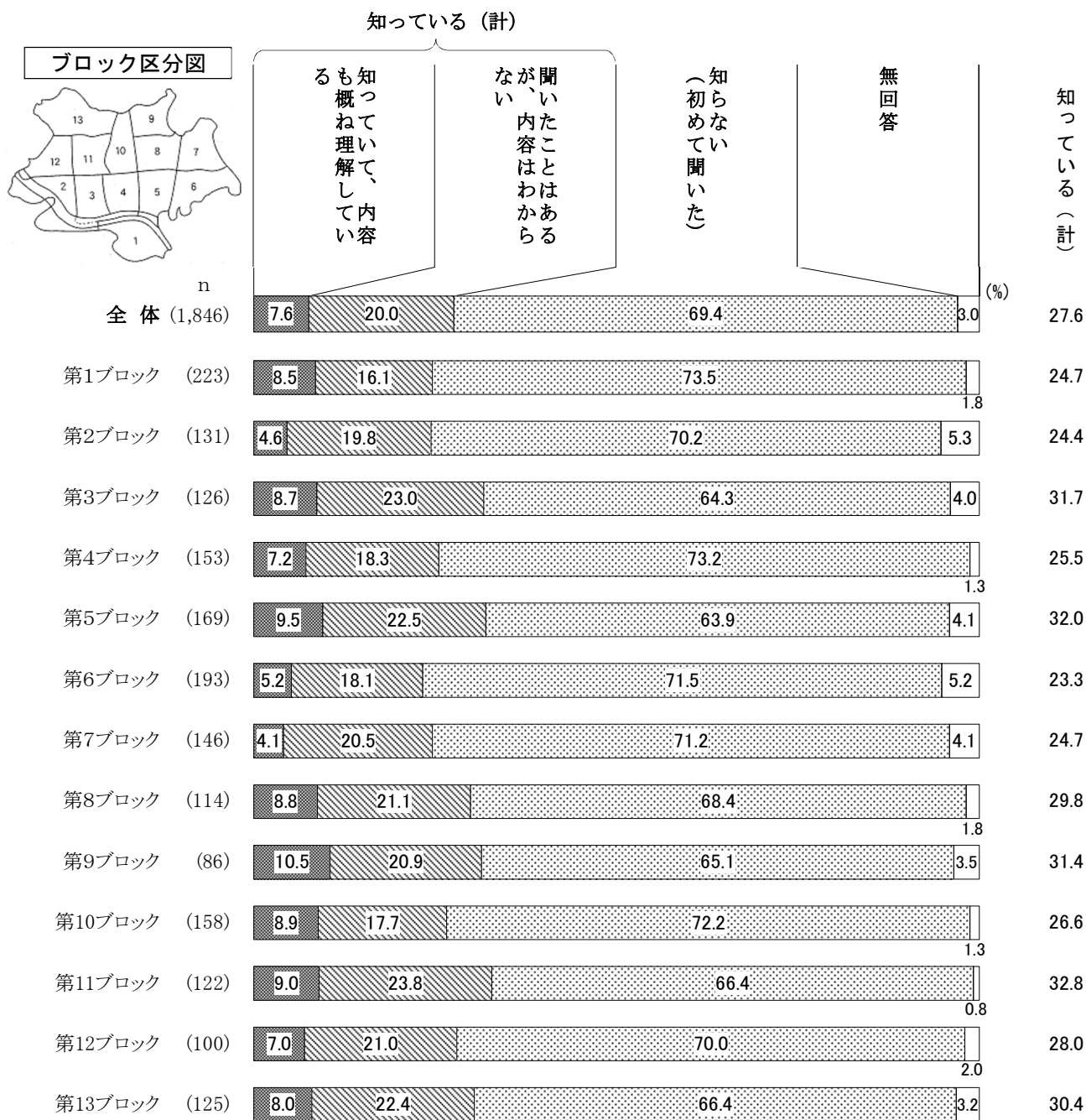
前回結果と比較すると、大きな差はみられない。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、【知っている】は、第3ブロック、第5ブロック、第9ブロック、第11ブロック、第13ブロックで3割を超えて、他のブロックより高くなっている。

地域ブロック別差は、第11ブロック（32.8%）と第6ブロック（23.3%）で最大9.5ポイントであった。

図7-1-2 地域ブロック別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

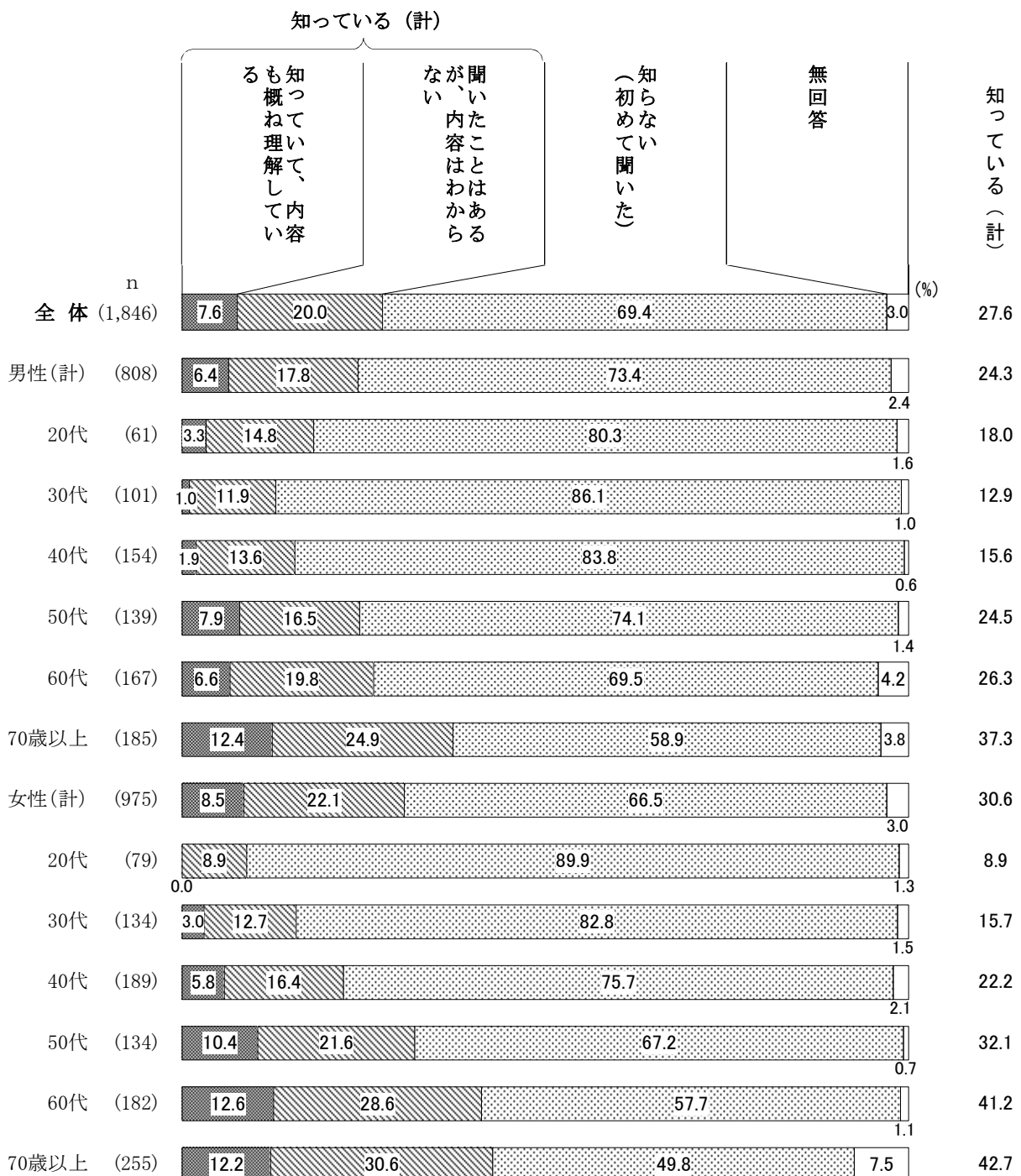


性別で見ると、【知っている】は、男性24.3%、女性30.6%と、男性より女性で高くなっている。  
 性・年代別で見ると、女性では、【知っている】は、加齢とともに増加傾向で、60代で41.2%、  
 70歳以上では42.7%となっている。

男性でも、30代で一旦落ち込むものの、年代が上がると【知っている】が高くなる点は同様である。

「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、年代によって大きな差がある。

図7-1-3 性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



(2) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路

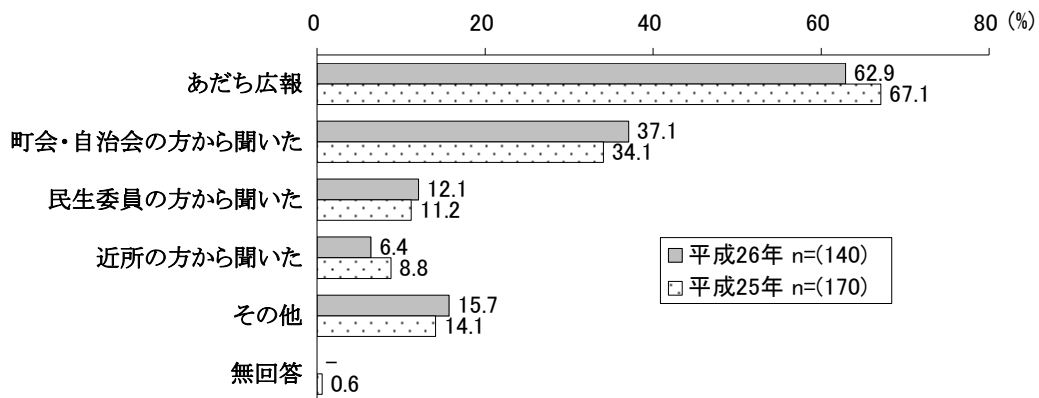
■ 「あだち広報」が6割を超え、多くなっている

問28で「1. 知っていて、内容も概ね理解している」とお答えの方に

問28-1 プロジェクトのことをどのようにして知りましたか。

(○はあてはまるものすべて)

図7-2-1 前回調査比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路

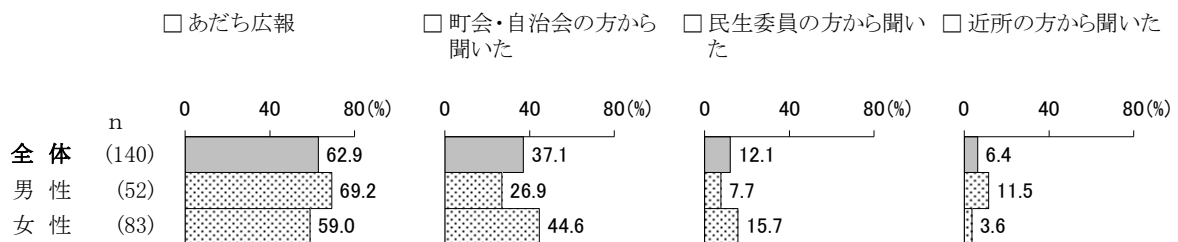


「知っていて、内容も概ね理解している」人に、認知経路を聞いたところ、「あだち広報」が62.9%で最も高く、次いで「町会・自治会の方から聞いた」(37.1%)となっている。

前回結果と比較すると、「あだち広報」が67.1%から62.9%と低くなっている。

性別でみると、「あだち広報」は、男性69.2%、女性59.0%と、男性が女性より10.2ポイント高くなっている。また、「町会・自治会の方から聞いた」は、男性26.9%、女性44.6%と、女性が男性より17.7ポイント高くなっている。

図7-2-2 性別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路



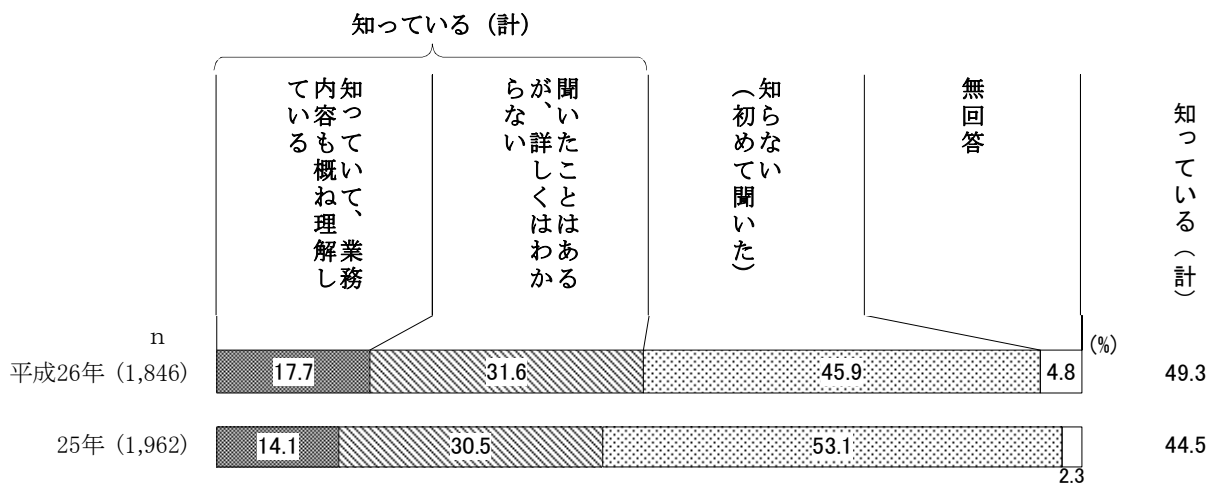
(3) 「地域包括支援センター」の認知状況

■ 【知っている】が半数に近づく

問29 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか。（○は1つだけ）

※ 「地域包括支援センター」とは足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の様々なご相談に応じて、公的な保健福祉サービスの紹介や申請手続きのお手伝いをします。

図7-3-1 前回調査比較／「地域包括支援センター」の認知状況



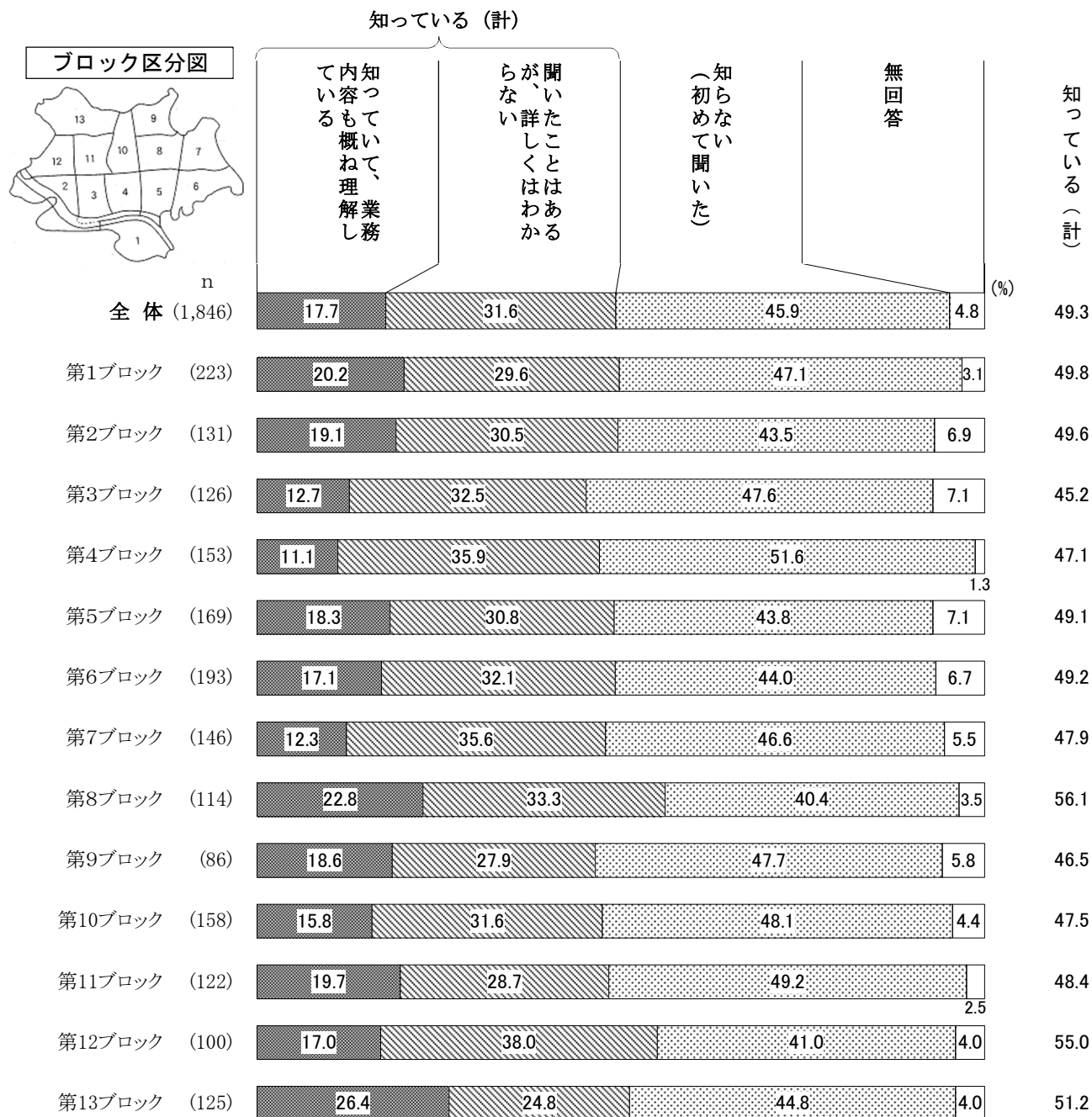
「地域包括支援センター」について、「知っていて、業務内容も概ね理解している」が17.7%で、これに「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」の31.6%を合わせた【知っている】は49.3%である。一方、「知らない（初めて聞いた）」は45.9%を占めている。

前回結果と比較すると、【知っている】は今回49.3%と、前回の44.5%から4.8ポイント増加している。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、第8ブロック、第12ブロックでは、【知っている】が、それぞれ56.1%、55.0%と、他のブロックよりやや高くなっている。

図7-3-2 地域ブロック別／「地域包括支援センター」の認知状況



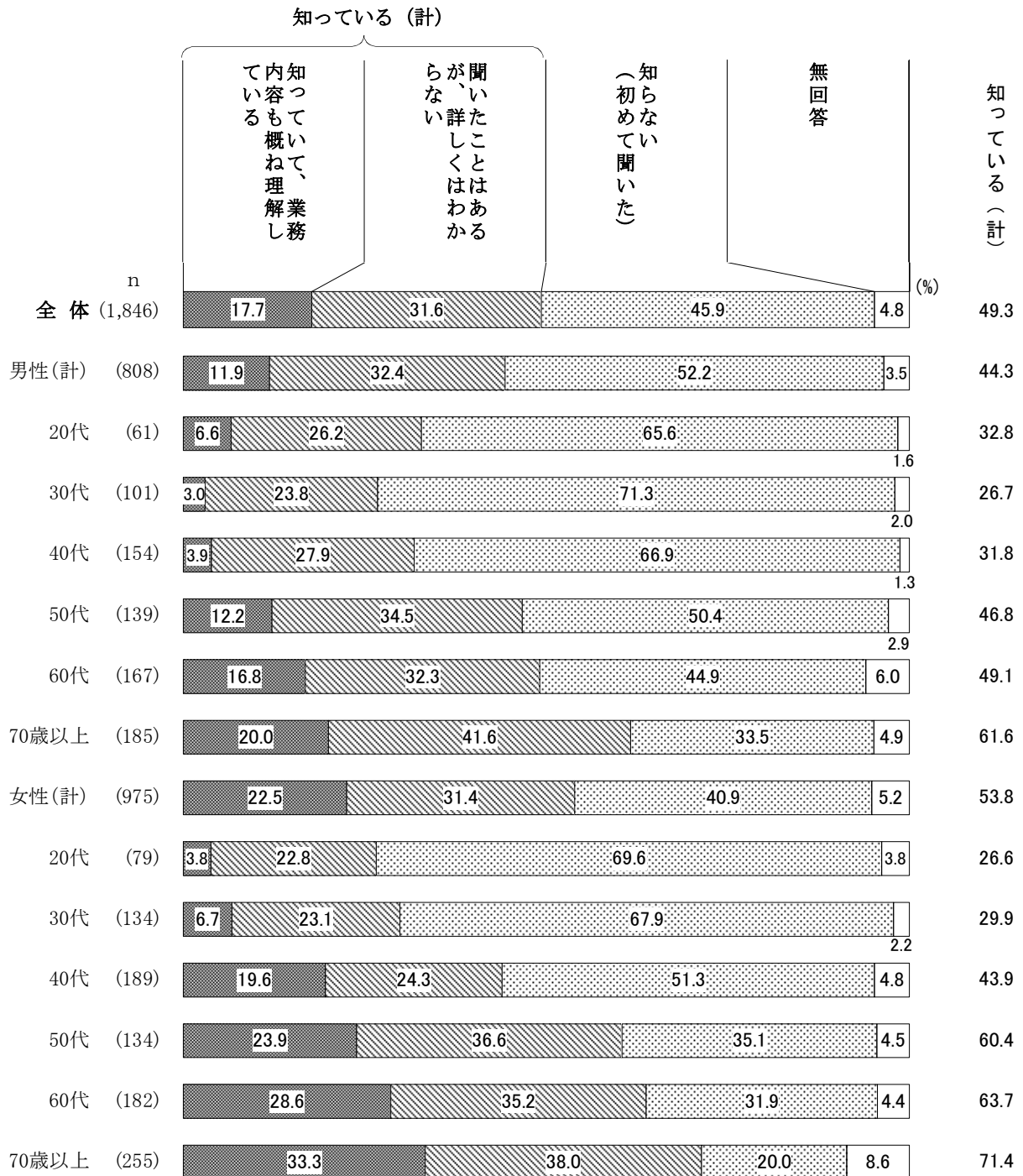


性別でみると、【知っている】は男性44.3%、女性53.8%と男性より女性で高くなっている。

性・年代別でみると、女性では、加齢とともに【知っている】が増加傾向であり、70歳以上では71.4%と、7割を超えている。

男性でも、30代で一旦落ち込むものの、年代が上がると【知っている】が高くなる傾向があり、70歳以上では61.6%となっている。

図7-3-3 性別、性・年代別／「地域包括支援センター」の認知状況



(4) 「地域包括支援センター」の認知経路

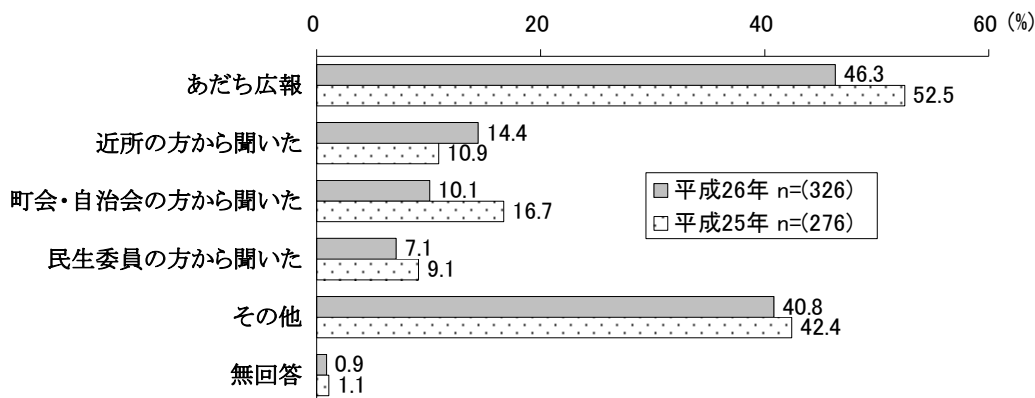
■ 「あだち広報」が4割台半ば

問29で「1. 知っていて、業務内容も概ね理解している」とお答えの方に

問29-1 「地域包括支援センター」のことをどのようにして知りましたか。

(○はあてはまるものすべて)

図7-4-1 前回調査比較／「地域包括支援センター」の認知経路

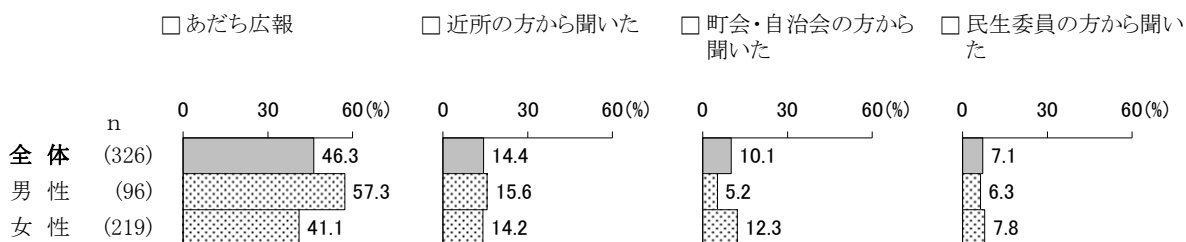


「知っていて、業務内容も概ね理解している」という人に、認知経路を聞いたところ、「あだち広報」が46.3%で最も高く、次いで「近所の方から聞いた」(14.4%)となっている。

前回結果と比較すると、「あだち広報」が52.5%から46.3%と、6.2ポイント低くなっている。

性別で見ると、「あだち広報」は男性57.3%、女性41.1%となっている。また、「近所の方から聞いた」は、男性15.6%、女性14.2%となっている。

図7-4-2 性別／「地域包括支援センター」の認知経路

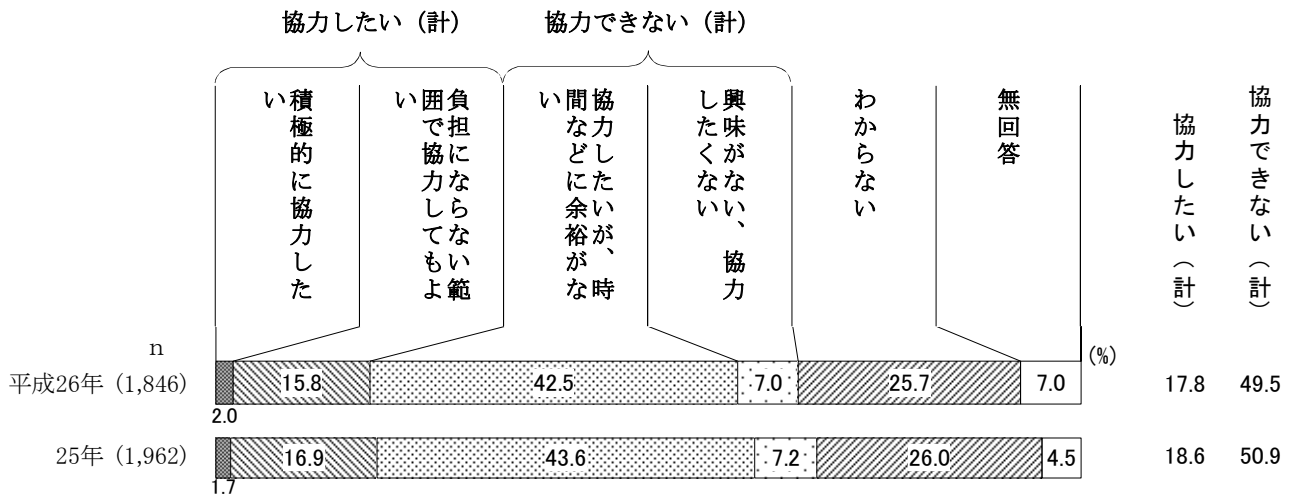


(5) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

■ 【協力したい】の1割台半ばに対し、【協力できない】は5割弱

問30 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか。(○は1つだけ)

図7-5-1 前回調査比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



高齢者の孤立防止や見守り活動に「積極的に協力したい」は2.0%で、これに「負担にならない範囲で協力してもよい」の15.8%を合わせた【協力したい】は17.8%である。

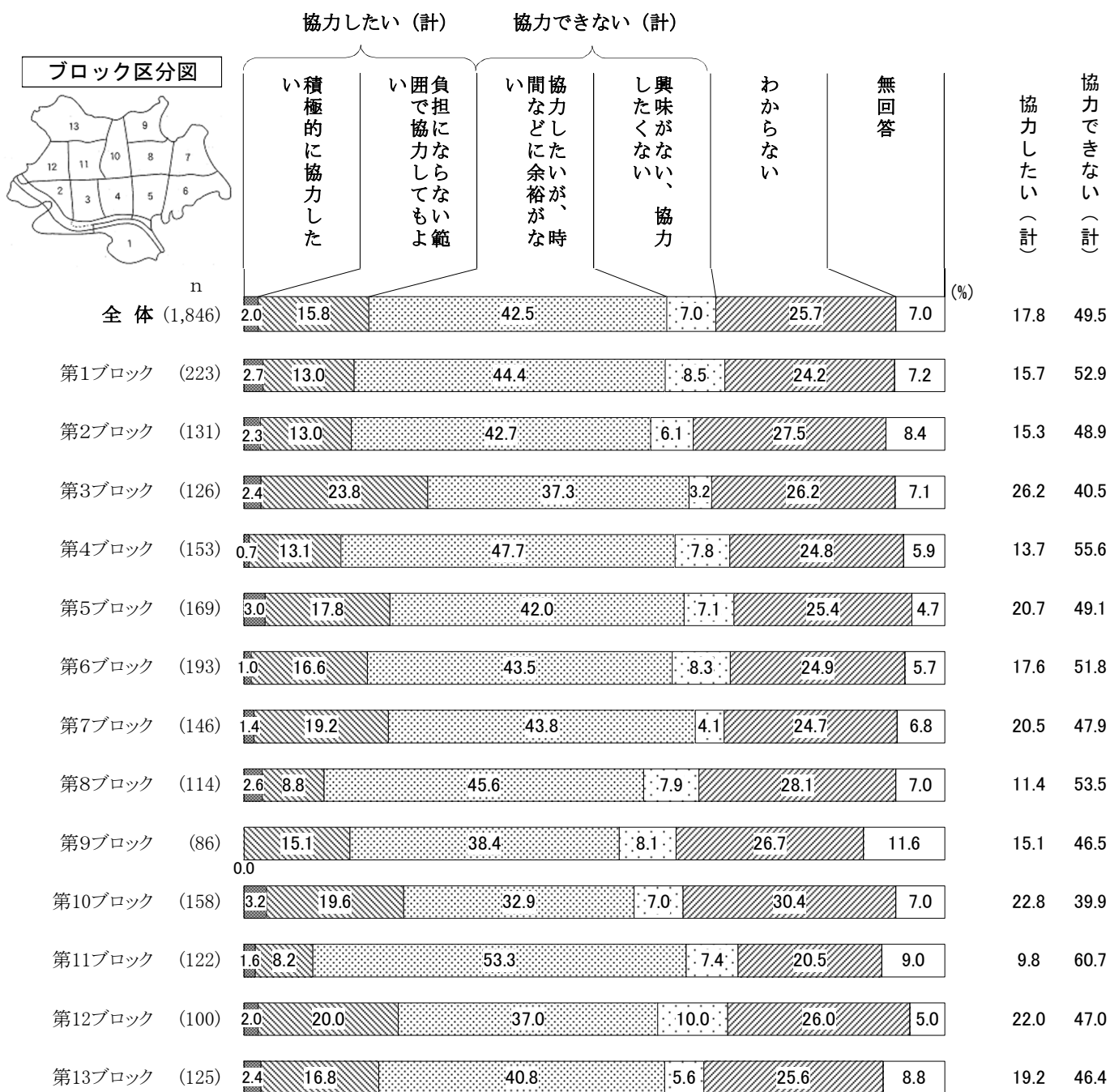
一方、「協力したいが、時間などに余裕がない」は42.5%、「興味がない、協力したくない」は7.0%となっている。

前回結果と比較すると、【協力したい】は18.6%から17.8%と、ほぼ横ばいである。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別で見ると、第3ブロックでは、【協力したい】が26.2%と、全ブロック中最も高くなっている。一方、第11ブロックは【協力したい】が9.8%と最も低くなっている。

図7-5-2 地域ブロック別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

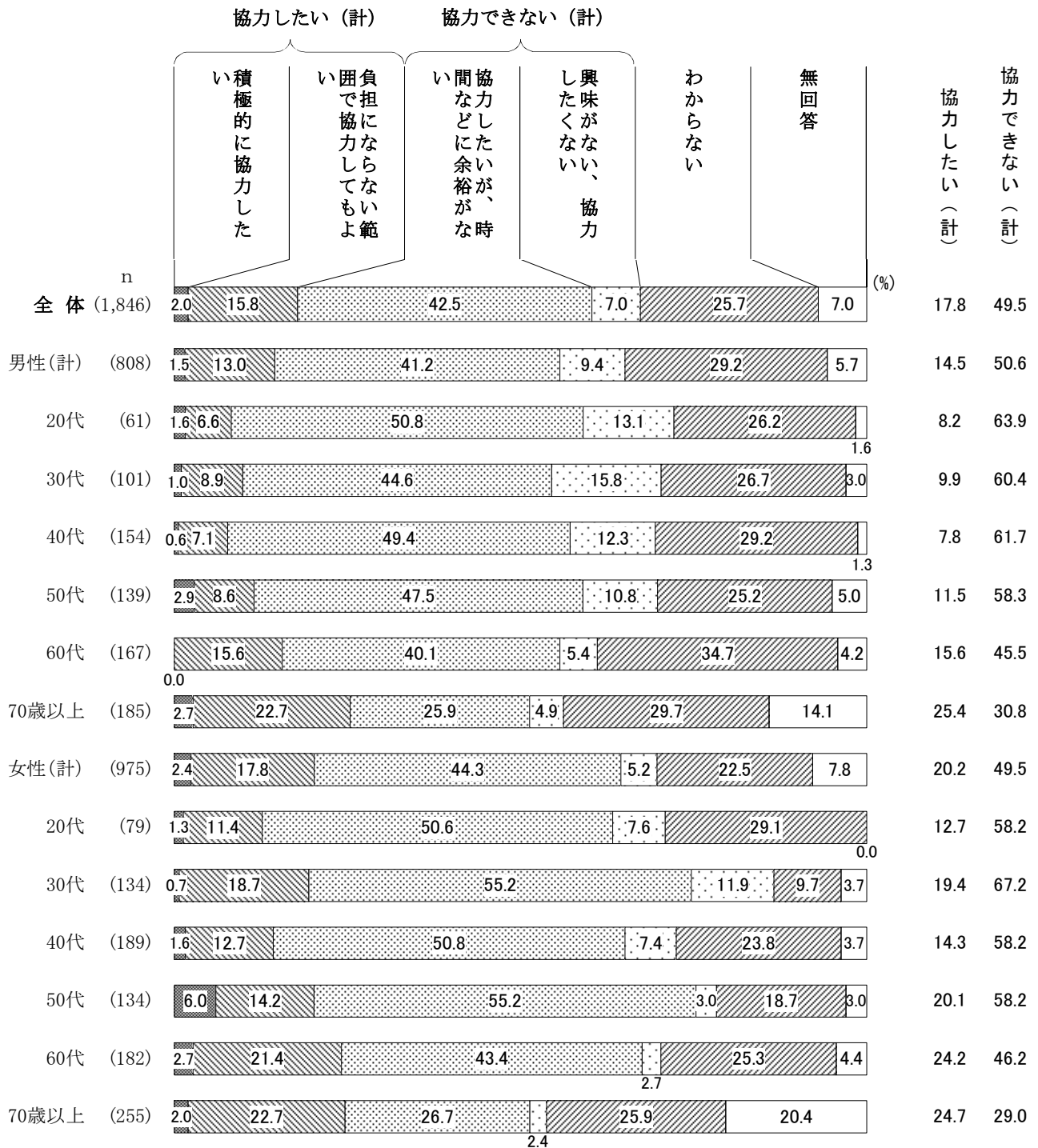


性別でみると、【協力したい】は男性14.5%、女性20.2%となっている。

性・年代別でみると、男性では、70歳以上で【協力したい】が25.4%となっている。40代で【協力したい】は7.8%と、全年代で最も低かった。

女性では、60代、70歳以上で【協力したい】が、それぞれ24.2%、24.7%と、他の年代より高くなっている。

図7-5-3 性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

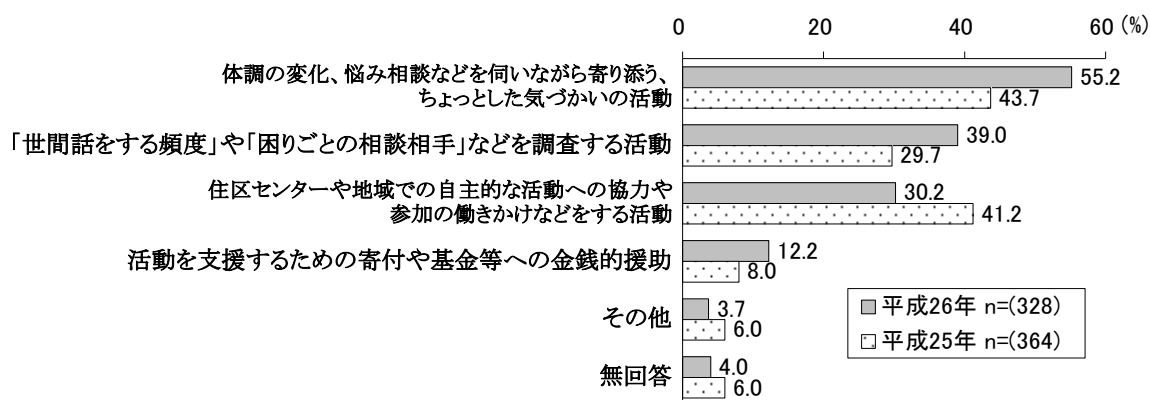


(6) 協力意向がある活動内容

■ “ちょっとした気づかひの活動” が5割台半ば

問30で「1. 積極的に協力～」、または「2. 負担にならない範囲で協力～」とお答えの方に  
 問30-1 どのような活動に協力したいですか。(○はあてはまるものすべて)

図7-6-1 前回調査比較/協力意向がある活動内容



平成25年調査の選択肢について

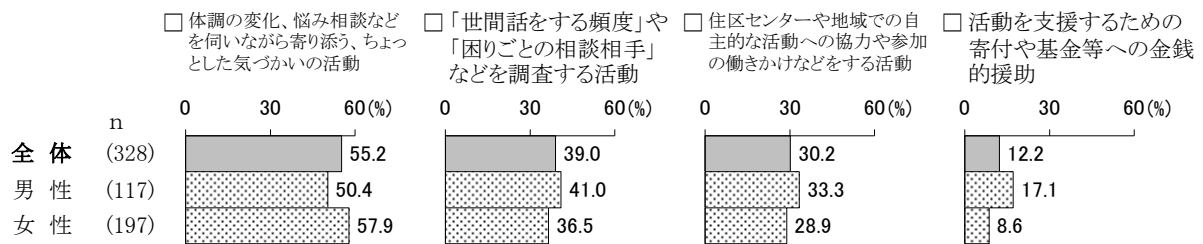
- 体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動＝平成25年調査：寄り添い支援活動
- 「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査する活動＝平成25年調査：調査活動
- 住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動＝平成25年調査：居場所づくりや活動の場での協力
- 活動を支援するための寄付や基金等への金銭的援助＝平成25年調査：財政的協力

【協力したい】という人に、その活動内容を聞くと、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動」が55.2%と最も高く、次いで『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動」の39.0%となっている。

前回結果と比較すると、選択肢の表現が違うので参考に過ぎないが、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動」は43.7%から55.2%と11.5ポイント、「世間話をする頻度」や『困りごとの相談相手』などを調査する活動」は29.7%から39.0%と9.3ポイント高くなっている。

性別で見ると、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動」は男性50.4%、女性57.9%と、女性の方が7.5ポイント高くなっている。また、『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動は男性41.0%、女性36.5%と、男性の方が4.5ポイント高くなっている。

図7-6-2 性別／協力意向がある活動内容

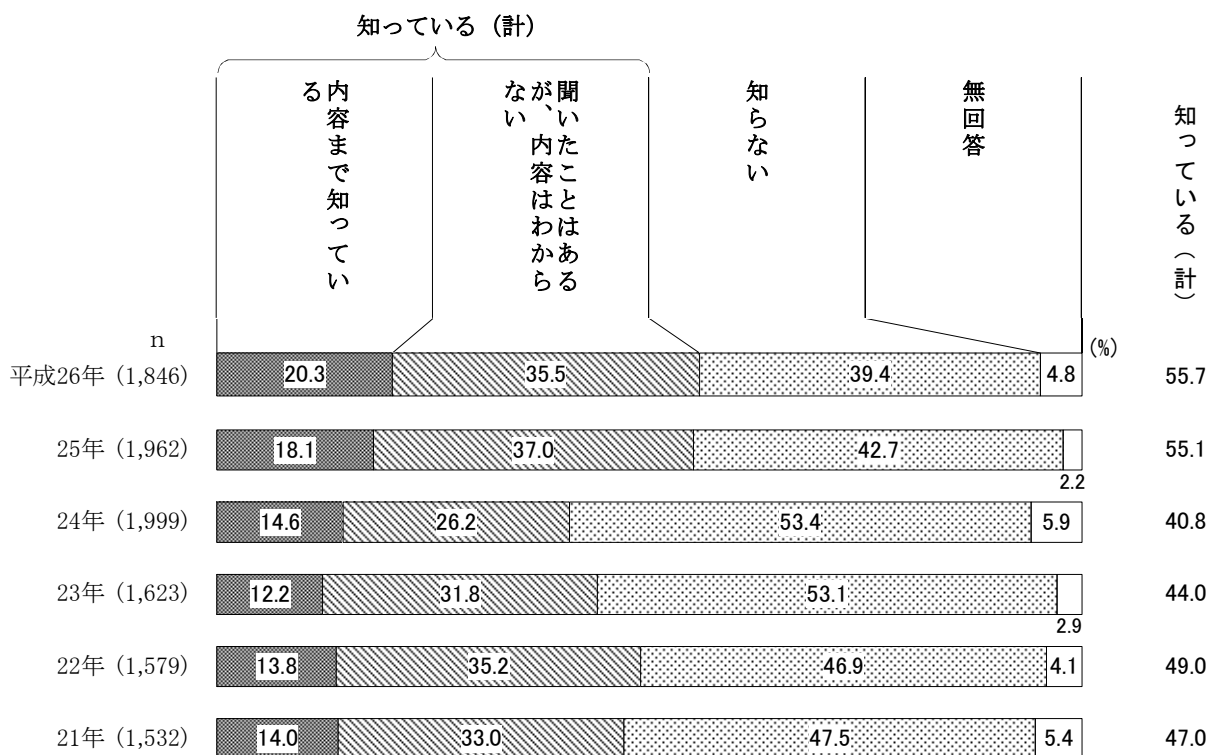


(7) 「成年後見制度」の認知状況

■ 【知っている】は5割台半ば

問31 あなたは、高齢者等の権利を守るしくみとして、「成年後見制度」を知っていますか。  
(○は1つだけ)

図7-7-1 経年比較／「成年後見制度」の認知状況



※ 「聞いたことはあるが、内容はわからない」は、前回まで「名前は知っているが、内容はわからない」。

成年後見制度について、「内容まで知っている」は20.3%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の35.5%を合わせた【知っている】は55.7%と過半数を占めている。一方、「知らない」は39.4%となっている。

経年で比較すると、【知っている】は前回55.1%から、今回55.7%と、ほぼ横ばいとなっている。



性別でみると、【知っている】は、男性57.3%、女性55.0%となっている。

性・年代別でみると、男性では、50代、60代で【知っている】が、それぞれ61.9%、64.7%と高くなっている。

女性では、加齢とともに【知っている】が増加する傾向があり、60代では62.6%と最も高くなっている。

図7-7-2 性別、性・年代別／「成年後見制度」の認知状況

